

平成17年度 交通局運営方針

アクションプログラム2005

～お客様に愛され、信頼される市バス・地下鉄をめざして～



平成17年5月
京都市交通局



市バス事業の概要



市バスは、74系統750台のバスが市内を網の目のように運行し、1日で地球を2周する約7万8,000kmを走り続け、毎日約32万人のお客様にご利用いただいています。これは、市内のバス交通のうち85%を占めており、まさに市内交通の中心的な役割を果たしています。

しかし、お客様のご利用が少なく、民間バス並みのコストで運行しても赤字となる、いわゆる「生活支援路線」をどのようにして確保していくかが課題となっています。



地下鉄事業の概要



地下鉄は、都市空間を有効に活用しつつ、地域の発展と活性化に極めて大きな効果をもたらす公共交通機関です。京都市の地下鉄は、烏丸線と東西線の2路線合わせて28.8kmの路線で、1日あたり東京～大阪間の7往復半に相当する8,109kmを運行し、毎日約31万人のお客様を安全・確実にお運びしています。

しかし、その便利な地下鉄も、1km伸ばすのに200億～300億円もの建設費がかかることから、その債務をどのようにして返済していくかが課題となっています。



これからの市バス・地下鉄がめざすもの



市バス

更なるサービスアップと徹底したコスト削減に努めるとともに、市バスのネットワークを守るため、「生活支援路線」を全力で維持します！



地下鉄

平成16年11月に開通した東西線(六地蔵～醍醐間)に続き、平成19年度中の東西線(二条～天神川間)の開通をめざします！



職員の接遇マナーアップにより、市民に愛される市バス・地下鉄をめざします。



人件費・経費の削減や、更なるサービスの向上により、民間のバスや鉄道事業者に負けない事業運営をめざします。



市バス・地下鉄の各施設のバリアフリー化や、環境に配慮したバス車両や燃料の導入など低公害化の取組をすすめ、ひとや環境にやさしい市バス・地下鉄をめざします。

都市の社会基盤として大切な市民の足である市バス・地下鉄のネットワークを全力で守ります！！

平成17年度の1年間、交通局では、 以下のことに全力で取り組みます！

平成17年度の主な取組

市バス

「生活支援路線」を確保していく方法を検討するため、
「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」を行います。

地下鉄

地下鉄の厳しい財政状況について、市民やお客様にご理解
いただくため、PRパンフレットやホームページによる広報
などのあらゆる手段を通じて十分な説明を行います。



平成17年度 交通局運営方針



1 お客様に便利・快適にご乗車いただく

ための9つのアクションプログラム・・・ 1ページ

2 職員の意識改革をすすめる

ための3つのアクションプログラム・・・ 6ページ

3 経営を健全化する

ための9つのアクションプログラム・・・ 8ページ

4 市民のみなさまと一緒に市バス・地下鉄を考えていく

ための2つのアクションプログラム・・・ 14ページ

5 市バスを走りやすくする

ための2つのアクションプログラム・・・ 15ページ

6 ひとや環境にやさしい市バス・地下鉄にする

ための3つのアクションプログラム・・・ 16ページ

7 速くて便利な地下鉄の路線を伸ばす

ための1つのアクションプログラム・・・ 18ページ

1 お客様に便利・快適にご乗車いただくための9つのアクションプログラム

(1) 路線・ダイヤの改善 【自動車部運輸課】

⇒ お客さまにお乗りいただきやすい市バス路線・ダイヤにします。

17年度予算額は
3億600万円です。



17年度は...

- 「京都のバス事業を考える会」からの答申や「市バス系統改革プロジェクトチーム」による検討結果を踏まえ、お客さまにご利用いただきやすい路線設定を研究します。お客さまに分かりやすいパターンダイヤの拡大に取り組みます。

今までの主な取組

- 14年度 市バス交通調査の実施、西4号の新設 など
- 15年度 乗継無料のモデル路線の試行実施(27号と203号)
ダイヤのパターン化(59号、201号など)
ご利用状況に合わせた土曜ダイヤの見直しと学休期の平日ダイヤでの運行 など
- 16年度 鉄道へのアクセス強化(18号、特81号、102号、特南2号など)
系統を新設(57号) [系統数]73 74系統
パターンダイヤの拡大

(2) 市バスの走行環境改善による定時性の確保 【自動車部営業課】

⇒ 市バスが遅れずに走れるように、バス専用レーンの確保などに取り組みます。

17年度予算額は
2億9,600万円です。



17年度は...

- 京都府警察に公共車両優先システム(PTPS)の延長を継続して要望します。
- 春と秋の観光シーズンに「おもてなしキャンペーン 都大路作戦」(違法駐停車防止への啓発活動やお客さまのご案内などを労使一体で実施)を実施し、局地的な渋滞の解消に努めます。
- 毎週金曜日に、四条通や河原町通のバス停周辺で、職員の立地により「違法駐停車防止への啓発活動」を行います。
- 「違法駐車等防止指導員」による違法駐停車防止への啓発活動を月曜日～金曜日に実施します。
- 道幅が狭いなど、市バスの走行が困難な場所をスムーズに走れるよう、関係部局に継続して改善を要望します。
- 「運行管理システム」(バスの運行状況を把握するシステム)に使用する機器の更新を順次行います。

今までの主な取組

- ・公共車両優先システム(PTPS)...13年度 北大路BT～西大路四条間(6.5km)設置
14年度 西大路四条～九条車庫前間(5.0km)設置
- ・バス専用レーンの設置...総延長91.2km(17年3月末現在)
- ・都大路作戦...延べ825人参加(16年度実績)
- ・職員による立地啓発活動...延べ392人参加(16年度実績)
- ・運行管理システム車載機更新台数...750台(17年3月末現在)
- ・違法駐停車指導員による啓発活動...延べ4,357人参加(16年度実績)
- ・走行困難箇所改善へ向けた関係部署への要望

(3) 運賃制度の改善 【企画総務部企画課】

⇒ より多くのお客さまにお乗りいただけるような、魅力的な運賃にします。

17年度予算額は
7億2,500万円です。



17年度は...

- 市バス定期券の魅力アップによってより多くのお客さまにご利用いただけるように、均一区間と一部の調整区間が合わせて乗り放題となる「市バス通勤フリー定期券」を新発売しました。
- 短い距離でも学生の皆様に市バスをご利用いただけるように、大学生向けの通学定期券のうち、均一区間全線乗り放題の対象ではない2 km以下の短距離定期券を10%値下げしました。(1箇所 7,200円 6,480円)
- 市バスの利便性を一層向上させるため、1,000円で1,100円分ご利用いただけ、かつ、90分以内の乗り継ぎが90円割引となる「市バスとくとくカード」を新発売しました。
- 他都市からのお客さまにもお使いいただきやすい企画乗車券(地下鉄1dayフリーチケット、京の遊々きっぷ、いい古都チケット、スルッとKANSAI京都1dayチケットなど)を今年も発売します。
- 今年度に予定している地下鉄自動出改札機の複数枚対応機への更新(17年度予算額:3億2,270万円)により、将来のICカード乗車券の導入に向けた準備を進めています。

今までの主な取組

- 13年度 市バス専用一日乗車券カードの車内販売開始
- 14年度 「京都コンベンションパス」の発売開始
- 15年度 大学生通学定期(甲)の均一区間内全線利用化の実施
トラフィカ京カードによる市バス・市バス、市バス・地下鉄乗継割引の実施
- 16年度 市バス通学学期定期券の通用期間を拡大
市バス専用一日乗車券カード(小児用250円)発売開始

(4) バス停留所の設置位置の改善 【自動車部技術課】

⇒ 市バスと地下鉄を乗り継ぎやすくするため、地下鉄の駅から遠いバス停を近くまで移動させ、利便性の向上を図ります。

17年度予算額は
378万円です。



17年度は

- 地下鉄の駅から離れた場所にあるバス停留所のうち、移設に必要な条件を満たしたバス停留所については、できるだけ速やかに移設します。

今までの主な取組

- ・バス停留所の設置位置の改善に向けた取組
- 15年度 改善が必要な停留所リストを作成
- 16年度 改善候補地の調査及び地先との協議

(5) IT等の活用による情報提供 【企画総務部総務課】

⇒ 「ポケット・バスロケ」(携帯電話から市バスが今どこを走っているのかを調べるシステム)や交通局のホームページをより使いやすくします。

17年度予算額は
779万円です。



17年度は...

- お客様が携帯電話で市バスや地下鉄の情報をより簡単に手に入れることができるよう、市バスの全停留所や地下鉄駅、市バス・地下鉄路線図などに2次元コードを表示します。
- 「ポケット・バスロケ」を公共施設などに設置できるように、表示画面の開発を行います。

今までの主な取組

- ・ポケット・バスロケ
 - 12年度 携帯型バスロケーションシステム「ポケット・バスロケ」の運用開始
 - 14年度 市バス接近メール通知サービス「ポケロケメール」の実施
 - 16年度 地下鉄今出川駅構内に設置したモニタで市バス接近情報を表示
- ・交通局ホームページ
 - 9年度 インターネットホームページによる市バス全停留所の時刻表案内を開始
 - 11年度 「市バス地下鉄のある風景」を新規作成
携帯電話向け情報サービス開始
 - 14年度 「契約のご案内」を新規作成
 - 15年度 「カード販売スケジュール」を新規作成
 - 16年度 「よくあるご質問」を新規作成

(6) 案内表示の改善 【自動車部営業課・高速鉄道部営業課】

⇒ 市バスや地下鉄の案内表示を工夫し、お客様や外国からの観光客の方にとって、もっとわかりやすい案内表示にします。

17年度予算額は
140万円です。

※産業観光局と連携して実施



17年度は...

- 市バスの案内表示を適宜改善します。
- 地下鉄駅に順次「バス乗継案内板」を設置します。

今までの主な取組

- 15年度 京都駅前北口ひろばに頭上案内板、地下鉄今出川駅にバス乗継案内板を設置
- 16年度 地下鉄駅にナンバリング表示追加
外国人向け観光推奨バス路線「洛バス」運行開始に伴う案内表示の整備
(バス停留所での周辺観光案内板・付近観光案内板の設置、外国人向けバスマップの作成など)
北大路及び洛西バスターミナルの案内表示を改善
地下鉄5駅(東山、二条城前、北大路、四条、五条)にバス乗継案内板を設置
地下鉄今出川駅に市バス接近表示器を設置

(7) バスロケーションシステムの増設 【自動車部技術課】

⇒ バス停でお待ちのお客様に、市バスの接近情報をお知らせする「バスロケーションシステム」を設置します。

17年度予算額は
1,500万円です。



17年度は...

- バスロケーションシステムを新たに8基増設します。
- 公共施設型バスロケーションシステムの設置を推進します。

今までの主な取組

- 2年度 バス総合運行システム・バスロケーションシステムを一部運用開始
(桂駅西口、京都駅前のりば、西大路通、下鴨・河原町通)
- 5年度 今出川通、東山通などで運用拡大(42基)
- 6年度 竹田街道、九条通などで運用拡大(66基)
- 7年度 バスロケーションシステムの運用拡大(停留所36基、公共施設型5基)
以後、順次増設し、現在240基(公共施設内6基含む、17年3月末現在)

(8) イベントの開催・参加 【企画総務部企画課・高速鉄道部営業課】

⇒ 駅や地域で行われるイベントに参加したり、イベントを開催するなど、親しみの持てる市バス・地下鉄をめざします。

17年度予算額は
65万円です。



17年度は...

- 「アートパフォーマンス in 山科駅」を毎月1回開催します。
- ふれあい区民広場に年2回参加します。
- 今年も「スルッとKANSAIバスまつり」へ参加します。
- 「京都・花灯路」や「伝統産業の日」のきものきっぷ(きものでおでかけ・無料乗車券)などの市の取組に参加します。

今までの主な取組

- ・アートパフォーマンス in 山科駅... 12年度から毎月1回、地下鉄東西線山科駅にある「音の広場」で開催
- ・ふれあい区民広場... 9年度から年2回程度参加
- ・スルッとKANSAIバスまつり... 13年度から毎年参加
- ・市の事業とのタイアップ
 - 13年度 京都映画祭 他
 - 14年度 京都花灯路、世界水フォーラム 他
 - 15年度 二条城築城400年・京都市動物園開園100周年・京都市美術館開館70周年記念事業、「京都・花灯路」、伝統産業の日 他
 - 16年度 新撰組観光キャンペーン、「京都・庭園散策 岡崎」、「京都・花灯路」、伝統産業の日 他

(9) 観光客誘致施策との連携 【企画総務部企画課・自動車部営業課】
観光客の方に、市バス・地下鉄に乗って観光しやすい京都のまちをPRします。



17年度は...

○「公共交通でおこしやす・京都市協議会」などの京都市が行う観光客誘致のための取組に積極的に参加します。

今までの主な取組

- ・「京都市観光振興推進会議（おこしやす推進会議）」（平成12年設置）
【主な取組】「5000万人観光都市・京都」の実現に向け協議を行う。
- ・「京都観光推進協議会」（昭和59年設置）
【主な取組】全国宣伝誘致キャラバン、学校説明訪問の実施
- ・「公共交通でおこしやす・京都市協議会」（平成2年設置）
【主な取組】公的輸送機関利用促進キャンペーンの実施

2 職員の意識改革をすすめるための3つのアクションプログラム



(1) お客様接遇の向上 【企画総務部研修所】

⇒ お客様に快適にご利用いただける市バス・地下鉄をめざして、お客様の立場にたった接遇対応に努めます。



17年度は...

○「お客様第一」サービス運動の取組として「市バス・地下鉄サービスアップ優秀職員モニター制度」を実施し、お客様の立場にたった案内や対応に努めます。

今までの主な取組

- ・市バス・地下鉄サービスアップ優秀職員モニター制度
16年度 延べモニター職員数 7,398人 接遇状況「優」の職員率 18%
「管理の受委託」による委託部分を含む。

(2) 職員研修の充実 【企画総務部研修所】

⇒ お客様第一の安全運転や親しまれる接遇など、お客様サービスの更なる向上をめざした研修に取り組みます。

17年度予算額は
133万円です。



17年度は...

全職員を対象とする所属研修では、交通局の現状を再認識し、経営感覚に優れ、お客様のニーズに能動的に対応できる職員の育成を図ります。

市バス運転士研修では、研修用模擬コースによる安全運転実技やお客様対応実習などの取組を行います。

地下鉄職員研修では、事故防止や異常時の処置訓練、お客様対応実習などの取組を行います。

今までの主な取組

- ・所属研修（全職員対象）
 - 14年度 延べ受講者数 2,390人（受講率 98%）
 - 15年度 延べ受講者数 2,349人（受講率 99%）
 - 16年度 延べ受講者数 2,059人（受講率 98%）
- ・市バス運転士セミナー（3年サイクルで実施）
 - 14年度 延べ受講者数 412人（受講率 100%）
 - 15年度 延べ受講者数 338人（受講率 100%） 2巡目の全運転士受講完了
 - 16年度 新カリキュラム開始（個別指導に重点を置き、1回の受講者を7人 4人に変更）
延べ受講者数 184人（受講率 100%）
- ・地下鉄定期教育訓練
 - 14年度 延べ受講者数 1,819人（受講率 100%）
 - 15年度 延べ受講者数 1,833人（受講率 100%）
 - 16年度 延べ受講者数 2,658人（受講率 100%）

(3) 職員の意識改革 【企画総務部職員課】

⇒ 職員が目標を設定し、その達成度合を評価する「目標管理制度」を導入し、目的意識を持つ職員を育てます。



17年度は...

○指定職職員（課長級、課長補佐級、係長級）に導入している「目標管理制度」を、今年度も継続して実施します。

今までの主な取組

・目標管理制度

15年度 課長級職員に導入

16年度 課長補佐級、係長級職員に導入

3 経営を健全化するための9つのアクションプログラム



(1) 「管理の受委託」の拡大 【自動車部営業課】

⇒ 交通局が運賃・ダイヤ・路線等の決定に責任を持ちながら、市バスの運行を民間バス事業者に委託する「管理の受委託」を行い、市バスの経営体質を強化します。

17年度予算における削減効果額は
19億600万円です。



17年度は...

○市バス梅津営業所の一部系統を民間バス事業者に委託します。

今までの主な取組

11年度～12年度	横大路営業所の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	82両
15年度	洛西営業所の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	189両
16年度	九条営業所の一部の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	243両

(2) 総人件費の抑制 【企画総務部職員課】

⇒ 職員の給与などを減らすことにより、民間並みの運営コストをめざします。

17年度予算における人件費削減効果額は
25億円です。



17年度は...

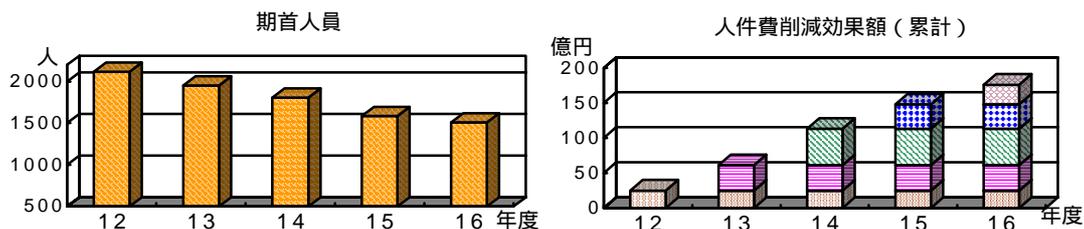
○16年度に引き続き、超過勤務手当の縮減・職員数の削減など、更なる人件費の削減を行います。

今までの主な取組

12年度	期首人員	2,117人(前年度比 170人)	人件費削減額	25億円
13年度	期首人員	1,952人(前年度比 165人)	人件費削減額	36億円
14年度	期首人員	1,807人(前年度比 145人)	人件費削減額	52億円
15年度	期首人員	1,584人(前年度比 223人)	人件費削減額	35億円
16年度	期首人員	1,509人(前年度比 75人)	人件費削減額	28億円(決算見込)

12～14年度...「京都市交通事業経営健全化プログラム21」による削減額

15年度～...「京都市交通事業ルネッサンスプラン」による削減額であり、プログラム21から更に削減したもの



(3) 経費の削減 【企画総務部財務課】

⇒ あらゆる経費を減らすことにより、民間並みの運営コストをめざします。

17年度予算における
経費削減効果額は
7億8,100万円です。
(達成度 86%)

内訳 バス 3億700万円
地下鉄 4億7,400万円



17年度は...

○20年度時点で、14年度予算比1割(9億800万円)の削減となるよう、委託業務の点検・見直しや業務マニュアルの作成などにより、順次経費を減らします。

今までの主な取組

- 15年度予算での削減実績... 3億7,100万円(達成度41%)
- 16年度予算での削減実績... 6億9,800万円(達成度77%)

(4) 定期観光バス事業の見直し 【自動車部運輸課】

⇒ お客様のニーズに見合った効率的な定期観光バスの運営に努め、より便利で快適に観光できる方法を考えます。

17年度予算額は
8,276万円です。



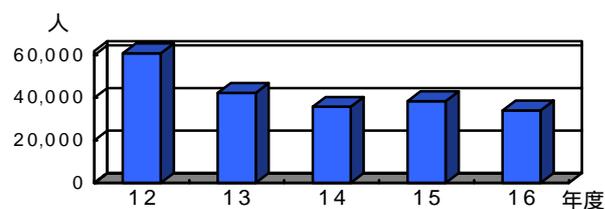
17年度は...

○京都の有名な観光地をバスに乗って回れる定期観光バスを有効に活用し、お客様が便利で快適に観光できる方法を考えます。

今までの主な取組

- 定期観光バス旅客数(年間)
 - 12年度...旅客数 60,904人
 - 13年度...旅客数 42,283人
 - 14年度...旅客数 35,778人
 - 15年度...旅客数 38,406人
 - 16年度...旅客数 34,035人

定期観光バス旅客数(年間)



- 定期観光バスの旅客増対策
 - 14年度 発売額の値下げ、グループ割引制度の拡大、短時間コースの新設 など
 - 16年度 臨時便の定期化、昼食有無選択制の導入、空席販売の拡大 など

(5) 「生活交通」(生活支援路線)の確保方策 【企画総務部企画課・財務課】

⇒ ご利用が少なく民間コストで運営しても赤字となるが、市民生活には欠くことのできない路線(「生活交通」(生活支援路線))の確保を図ります。

17年度予算における一般会計からの繰入額(補助金)は10億6,400万円です。



17年度は...

○市の一般会計から「生活支援路線」に対する補助金を受け、市バスのネットワークを維持していきます。(一般会計補助金：10億5,400万円)

○16年8月に設置した「京都のバス事業を考える会」からの答申を踏まえ、7月から「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」を実施します。(一般会計補助金：1,000万円)

今までの主な取組

- 14年度 「京都市交通事業審議会」に「生活交通」の確保方策やサービス水準について諮問
- 15年度 「京都市交通事業審議会」から、今後も公営企業として維持していく旨の提言が提出される。
- 16年度 市の一般会計において繰入(10億1,500万円)予算計上
「京都のバス事業を考える会」において、生活支援路線の確保方策及び安全・安心・快適なバスサービスのあり方について協議 中間答申(17年1月) 最終答申(17年4月)

【参考】「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」の概要

1 目的

「京都のバス事業を考える会」から、生活支援路線のより効率的・効果的な確保策について「民間事業者との連携による小型バス・ジャンボタクシーを活用した代替モデル実証実験を実施すべき」との答申をいただいたことを受け、車両の小型化による効率的運営とタイヤ増便等による利便性向上の両立を目指し、実証実験を実施します。

2 運行形態及び対象路線等

(1) 運行形態及び対象路線

代替運行形態	対象路線
終日 小型バス(定員33人)	16号(京都駅前～九条車庫前) 南8号(横大路車庫前～竹田駅東口)
終日 ジャンボタクシー(定員8人)	84号(京都外天前～京都駅八条口アバンティ前) 臨南5号(竹田駅東口～竹田駅東口)
早朝・夜間 ジャンボタクシー(定員8人)	42号(京都駅前～洛西口駅前) 43号(四条烏丸～久世橋東詰)

早朝・夜間における一部区間の小型バス・ジャンボタクシーによる代替実験(31号・65号)については、乗継ぎに係る運賃支払システムの整備等に時間を要するため、今回の実験では見送り、実施に向けた検討を続けます。

- (2) 運賃等
 - ・均一区間(220円)及び調整区間ともに現行どおり
 - ・敬老乗車証をはじめとした各種乗車証やバスロケーションシステム等も利用可

3 実施期間及び実施方法

実証実験は17年7月から18年9月までとし、以下の2段階に分けて実施します。

ア 第1段階(17年7月～18年3月)

現行の市バス路線上に、増便などのサービスを付加したダイヤを組んで小型バスやジャンボタクシーを走行させ、利用者の反応や運行コストなどの基礎的なデータを収集し、その検証を行います。

イ 第2段階(18年4月～18年9月)

第1段階の検証結果を踏まえ、更に鉄道駅との接続や利用者のニーズに即したダイヤ運用など、19年4月の本格実施を睨んで利便性と効率性の双方の向上を目指した実証実験を行い、実証実験全体の総括検証を行います。

4 実証実験の効果検証

有識者や本市関係者等で構成する「生活支援路線モデル実証実験検討会(仮称)」を新たに設置し、本実験の効果分析や改善点についての検証を行い、検証結果や評価等を公表します。

5 広報

沿線地域(南区、右京区、西京区、伏見区)を中心とした地元説明を実施するとともに、市民しんぶんへの記事掲載や、チラシ・ポスター等により市民への周知を図ります。

(6) 地下鉄構内の有効利用 【高速鉄道部営業課】

⇒ 駅の空きスペースを使って様々なサービスを提供し、お客様にとって便利な駅をめざします。



17年度は...

○四条駅にある「ミニ・コンビニ 都くん」や京都駅にある「フレッシュジュースショップ」のように、駅の利便性を向上させるための新しい駅構内空間の活用方法を検討します。

今までの主な取組

- 15年3月 「ミニ・コンビニ 都くん」四条駅店 開店
- 16年4月 「フレッシュジュースショップ」京都駅店 開店

(7) オリジナルグッズの企画・販売 【企画総務部企画課】

⇒ 市バス・地下鉄をモチーフにしたオリジナルの商品をつくり、親しみの持てる市バス・地下鉄をめざします。



17年度は...

○新しい市バス・地下鉄のオリジナルグッズを販売します。

今までの主な取組

- 13年度 市バスチョコQ4都市セット、市バスぷるぷる、地下鉄チョコQ、地下鉄くるっぴー、カレンダー発売
- 14年度 市バスちびっこチョコQ、地下鉄電車ごっこ、地下鉄パズルッと、カレンダー発売
- 15年度 カードゲームNORINORI、GOGO!バス、カレンダー、カラフルトレイン・バス発売
- 16年度 あっちこっちバス!!、GOGO!トレイン、カレンダー発売

(8) 広告制度のあり方の検討 【企画総務部総務課】

⇒ 広告主にお使いいただきやすい様々な種類の広告を用意し、市バス・地下鉄の収益増をめざします。

17年度広告収入予算額は
9億4,200万円です。

内訳 バス 3億6,400万円
地下鉄 5億7,800万円



17年度は...

○広告料収入を増やすため、宣伝効果が高く、魅力的な広告媒体を開発します。
○地下鉄駅電照式看板をはじめとした既存広告媒体の活性化を図ります。

今までの主な取組

- ・ラッピングバス所有台数... 45台(17年3月末現在)
- ・広告媒体数...市バス - 23種類、地下鉄 - 42種類(17年3月末現在)

(9) 地下鉄事業の長期収支改善 【企画総務部財務課】

⇒ 速くて便利な地下鉄ですが、建設費が巨額で、その返済が大きな負担となっていることから、地下鉄の財政構造の強化を図ります。

17年度予算における一般会計からの経営健全化のための出資額(収入)は70億8,600万円です。



17年度は...

○国の「地下鉄事業経営健全化対策」制度を活用して策定した「地下鉄事業経営健全化計画」(計画期間：16年度～25年度)の着実な推進を図るため、市から約640億円(17年度は70億8,600万円)の出資金を得るとともに、人件費や経費の削減などの経営健全化に取り組み、不良債務の抑制を図り、交通局の財政基盤を強化します。

これまでの取組と地下鉄経営の現状

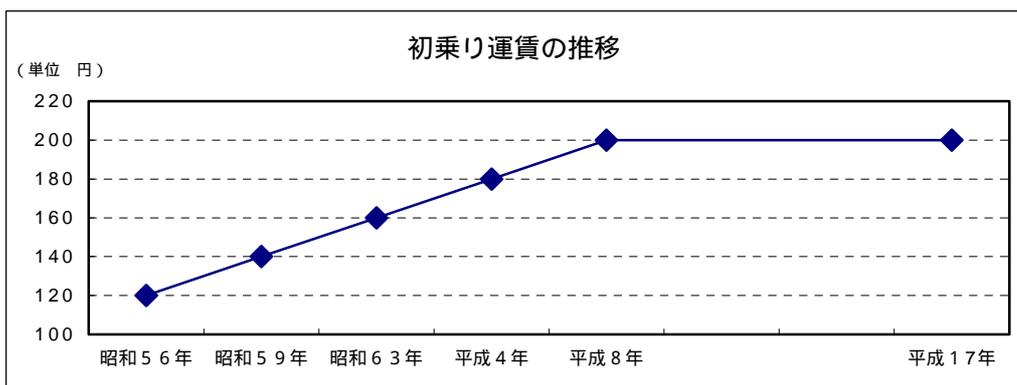
・地下鉄は、都市機能の活性化と再生を担い、人やものの円滑な流れを支える、安全・快適で環境への負担も少ない交通機関であり、本市としても最重要課題と位置づけて整備してまいりました。しかし、地下鉄は地中にトンネルを掘る大工事ですので、1km つくるのに約300億円、本市の地下鉄全体で約8,000億円もの費用がかかっており、その建設費の返済のための財政負担が大きな課題となっています。

〔地下鉄各線の総事業費等〕

	烏丸線(竹田～国際会館間)	東西線(二条～六地蔵間)
建設キロ数、総事業費	14.3 km、3,053 億円	16.1 km、5,071 億円 (六地蔵～醍醐間は556億円)

・地下鉄の建設は、補助制度により国や市からの支援はあるものの、建設費の約1/3はお客様からお支払いいただいた運賃を充当して賄うこととしております。しかし、開業時から建設費の返済に見合う運賃にすると大変高額となるため、長期にわたり定期的に運賃を値上げして、建設にかかった費用と運営にかかる費用とを併せて賄っていく枠組みとなっています。

・このため、昭和56年5月の地下鉄烏丸線の開業以降、平成8年9月まで15年間で定期的に4回の運賃値上げを行い、お客様にご負担をお願いしてまいりましたが、社会経済情勢が厳しいなかで、交通局としても経営健全化に努めたことにより、平成8年9月以降の約9年間は、運賃の値上げを行っておりません。



地下鉄健全化の主な取組内容

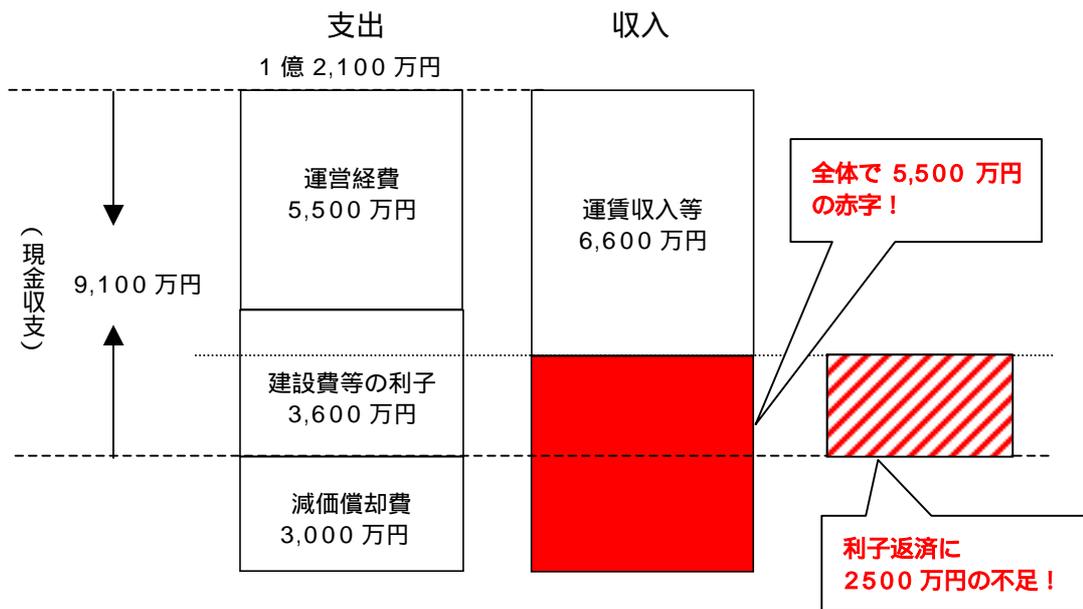
これまで、平成6年度の「京都市交通事業経営健全化計画」から平成15年度の「京都市交通事業ルネッサンスプラン」に至るまで、4次にわたる改革を断行し、職員の削減や大幅な給与カットなどを中心に、間断なく経営健全化に取り組んでいます。

- ・ 正規職員数の削減(15年度は11年度と比べて122人減少) 686人 564人
- ・ 経費の削減(15年度は11年度と比べて約10億円の削減)

・現在の財政状況は、運賃での収入額が総支出額の約半分程度で、**1日当たり約5,500万円もの赤字**を出しており、人件費・経費などの運営経費は、運賃収入によって賄うことができているものの、建設に要した借入金の返済については、その年度に支払う必要のある利子返済分までも運賃収入が追いついていません。

また、運営経費と利子返済に対する現金収支（経常収支から現金が不要な減価償却費を除いたもの）は、**1日あたり約2,500万円の赤字**を出しています。この赤字額が生じている限り、新たな借入金が増え続けることとなるため、この現金収支を1日も早く黒字化することが必要です。

17年度予算の1日当たりの経常収支



・そこで、早期に現金収支（経常収支から現金が不要な減価償却費を除いたもの）を黒字化するため「地下鉄事業経営健全化計画」を策定し、16年3月に総務省の「地下鉄事業経営健全化対策実施団体」の指定を受けて、財政状況の改善を図ることとしました。この計画では、16年度から25年度までの10年間に、一般会計の健全化出資（約640億円）、交通局の健全化努力、利用者負担としてお願いする計画的な運賃改定（17年度に10%、以後5年ごとに5%）を見込んでおり、計画を着実に推進することにより、その年度に支払う必要のある建設費等の利子の返済を行える経営体質への改善をめざします。

4 市民のみなさまと一緒に市バス・地下鉄を考えていくための2つのアクションプログラム



(1) 情報公開と市民理解の推進 【企画総務部企画課】

⇒ 交通局が行っている仕事を市民のみなさまに広く公開し、ご理解いただけるようにしていきます。

17年度予算額は
450万円です。



17年度は...

- 「京都市交通事業アクションプログラム」とその実施状況をホームページで公開します。
- 「京都市交通事業事務事業評価」の評価結果をホームページなどで公開します。

今までの主な取組

- ・京都市交通事業アクションプログラム
 - 15年3月 新たな事業再生計画「京都市交通事業ルネッサンスプラン」策定
 - 15年4月 「京都市交通事業審議会」から「規制緩和実施下における市バス事業経営のあり方について」の提言を提出
 - 15年8月 それらを一元的に推進する行動計画「京都市交通事業アクションプログラム」策定
 - 16年9月 15年度の実施状況を市会に報告
- ・京都市交通事業事務事業評価
 - 16年度 試行実施（15年度実績をもとに評価実施）

(2) 市民とのパートナーシップの推進 【企画総務部総務課】

市バス・地下鉄モニターの募集や「お客様満足度調査」を行い、市民のみなさまの貴重なご意見を交通局の仕事に反映させ、みなさまとともに走る市バス・地下鉄をめざします。



17年度は...

- 15年度に実施した「市バス・地下鉄モニター」からいただいたレポートを受けて、Eメールでの「お客様の声」の募集を開始します。
(詳しくは、交通局ホームページ <http://www.city.kyoto.jp/kotsu/> を参照)
- 市の「市政情報総合案内コールセンター」に参加し、素早いご案内ができる体制を整えます。
- NPO組織との協力関係を築きます。

今までの主な取組

- ・市バス・地下鉄モニター制度…13年度及び15年度実施
- ・お客様満足度調査…15年度実施
- ・NPO組織との懇談…16年8月、17年1月実施
- ・市バスご意見はがき
 - 実施期間 16年9月～17年3月
 - 受付件数 2,285件

5 市バスを走りやすくするための2つのアクションプログラム



(1) TDM施策の推進 【企画総務部企画課・自動車部営業課】

⇒ パーク&ライドをはじめ、その他のTDM(交通需要管理)施策に協力し、「歩くまち・京都」の実現をめざします。



17年度は...

- 「嵐山交通対策研究会」「東山交通対策研究会」と連携し、秋の観光シーズンに行われるパーク&ライドなどの取組に積極的に参画します。
- 特に、東山地区での交通社会実験の際は、昨年度に引き続き、東山地区と京都駅を結ぶ「東山シャトルバス」を運行するとともに、市バス(100号、206号など)から地下鉄(東西線東山駅 烏丸線京都駅)への振替輸送を予定しています。
- 「「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン」に基づき、バスロケーションシステムの拡充や走行環境改善の取組を進めます。

今までの主な取組

- 13年度 嵐山地区における交通社会実験へ参加(広報誌の配布、バス専用車線の設置など)
- 14年度 嵐山地区における交通社会実験へ参加(広報誌の配布、長辻通のトランジットモール化など)
- 15年度 嵐山地区におけるパーク&ライドへの参加
- 16年度 嵐山地区におけるパーク&ライド及び東山地区における交通社会実験へ参加(東山地区における「東山シャトルバス」の運行など)

(2) 公共交通の社会基盤整備 【企画総務部総務課・企画課・自動車部技術課】

公共施設型バスロケーションシステムをできるだけ多く設置するとともに、バス転回場を整備し、公共交通を利用しやすい環境をつくっていきます。



17年度は...

- 公共施設型バスロケーションシステムの設置に協力いただける施設を調査し、積極的に協議していきます。

今までの主な取組

・公共交通利用促進設備の設置状況

- 15年 6月 「ひと・まち交流館 京都」のご協力で公共施設型バスロケーションシステムを設置
- 16年 3月 「ダイヤモンドシティ・ハナ」のご協力で公共施設型バスロケーションシステムを設置
- 16年 11月 二条駅西口交通広場の供用開始
- 17年 1月 伏見港公園内にバス転回場を設置

6ひとや環境にやさしい市バス・地下鉄にするための3つのアクションプログラム



(1) バリアフリー化の推進 【自動車部技術課・高速鉄道部施設課】

ノンステップバス(床の低いバス)の導入や視覚障害者誘導用ブロックの設置などにより、ひとにやさしい市バス・地下鉄をめざします。

17年度予算額は
30億1,800万円です。



17年度は...

- ノンステップバスを108両導入します。(今まで導入した分をあわせると全体の約49%となります。)
- 市バスの停留所における歩道と車道の段差の解消や防護柵の撤去など、ノンステップバスに乗りやすい環境の整備をめざし、引き続き関係部局と協議を行います。
- 阪急烏丸駅と地下鉄四条駅との連絡通路の段差を解消するため、新たに階段昇降機を設置します。
- 従来の車いす対応型トイレについて、オストメイトの方にもご利用いただける多機能トイレへの改修を4駅で実施します。

今までの主な取組

- 市バスのバリアフリー化
 - ・ノンステップバス導入数 14年度-34両 15年度-67両 16年度-69両
累計 258両 (16年度末現在、全750両の約34%)
- 地下鉄のバリアフリー化
 - ・エレベーター音声案内及び車いす用副操作盤
建設時に設置 烏丸線国際会館駅、松ヶ崎駅、東西線全駅
～13年度 烏丸線鞍馬口駅、丸太町駅、烏丸御池駅、五条駅
14年度 烏丸線北大路駅、四条駅、京都駅、竹田駅
15年度 烏丸線北山駅、今出川駅、九条駅、十条駅、くいな橋駅 → **全駅設置完了**
 - ・視覚障害者誘導用ブロック
15年度 23駅に敷設(全27駅のうち85%)
16年度 4駅に敷設 → **全駅設置完了**
 - ・オストメイト対応トイレへの改修
16年度 3駅で実施(烏丸線京都駅及び烏丸御池駅、東西線京都市役所前駅)

(2) 市バス車両の低公害化 【自動車部技術課】

天然ガスバス(天然ガスを燃料とするバス)やアイドリングストップバス(停車時にエンジンが止まるバス)などを導入し、環境にやさしい市バスをめざします。

17年度予算額は
1億3,000万円です。



17年度は...

- 天然ガスバスを3両導入します。
- アイドリングストップを新しく購入するバス(105両)に装備します。
- DPF(ディーゼル排気微粒子除去装置)を8両に設置します。
- バイオディーゼル燃料(「みやこ・めぐるオイル」)を積極的に導入し、地球環境の保全に寄与します。

今までの主な取組

・天然ガスバス導入数	14年度 - 3両	15年度 - 3両	16年度 - 3両	合計	30両
・アイドリングストップバス導入数	14年度 - 31両	15年度 - 64両	16年度 - 66両	合計	278両
・DPF設置車両数	14年度 - 8両	15年度 - 5両	16年度 - 7両	+ 合計	28両
				合計	336両
					(全755両の約45%)
・バイオディーゼル燃料使用車両数	95両(16年度末現在)				

(3) 地下鉄の安全対策 【高速鉄道部営業課・運輸課・施設課・高速車両課】

非常停車通報ボタンや車両間転落防止装置(地下鉄ホームから車両と車両の間への転落を防ぐ装置)の設置により、どなたにでも安全にお乗りいただける地下鉄をめざします。

17年度予算額は
9,900万円です。



17年度は...

- 駅施設や車両内における不審物の点検を強化します。
- トラブルを未然に防止する安全装置が確実に作動するよう、日常的な保守管理を徹底するとともに、職員に対して基本動作の励行を徹底するなど、安全輸送の確立に向けた取組を進めます。
- 車両間転落防止装置を烏丸線2編成に設置します。(17年度で烏丸線の全編成に設置完了)
- 地下鉄駅での火災対策として、ホーム階とコンコース階の間に、21年度までに防火扉を順次設置していきます。

今までの主な取組

- ・京都市高速鉄道防火安全対策委員会
14年度 「交通・消防両局合同特別訓練」の実施
訓練結果を踏まえた職員に対する周知徹底の実施
16年度 7月 烏丸御池駅にてテロ災害を想定した訓練実施
11月 六地藏駅にて列車火災を想定した訓練実施
- ・非常停車通報ボタン設置数※...**烏丸線全14駅で1ホームあたり3基設置完了**
13年度 - 6基 14年度 - 12基 15年度 - 12基(設置完了)
- ・車両間転落防止装置設置数※
13年度 - 3編成 14年度 - 5編成 15年度 - 5編成 16年度 - 4編成
累計 18編成(烏丸線全20編成のうち90%設置、17年3月末現在)
※東西線は、ホームドアがあるため設置不要

7 速くて便利な地下鉄の路線を伸ばすための1つのアクションプログラム



(1) 地下鉄東西線の延伸 【建設室総括担当】

⇒ より多くの市民のみなさまや観光客の方にご利用いただけるように、徹底したコスト削減や工事の安全管理に努めながら、地下鉄の路線を伸ばしていきます。

17年度予算額は
136億1,200万円です。

建設局事業の道路補助対象分
(105億円)を含む。



17年度は...

○地下鉄東西線の二条～天神川間の19年度中の開通をめざし、工事の安全管理や徹底したコスト削減に努めつつ、シールドマシンによるトンネルの建設や駅舎の構築工事などの各種工事を計画どおりに進めます。

今までの主な取組

- ・地下鉄東西線（六地蔵～醍醐間）

総事業費

事業免許取得時 (10年度)	→	延伸開業時 (16年度)
712億円		556億円

当初計画より
156億円の削減を達成！！

10年 5月 6日	鉄道事業免許取得
11年 10月 1日	工事着手
16年 11月 26日	開通

- ・地下鉄東西線（二条～天神川間）

総事業費 745億円

13年 5月 9日	鉄道事業許可取得
14年 11月 8日	工事着手
(19年度中開通予定)	

【掲載先】

本誌は、交通局のホームページに掲載しておりますので、興味をもたれた方は、下記のアドレスにアクセスしてみてください。

京都市交通局ホームページ

<http://www.city.kyoto.jp/kotsu/>

【お問い合わせ先】

本誌に書かれている内容で何かご不明な点がございましたら、下記の担当課までお気軽にお問い合わせください。

本誌全般について

受付時間 平日のみ 8時50分～17時20分

企画総務部企画課

075-822-9108 FAX 075-822-9247

市バス・地下鉄全般について

受付時間 平日・休日とも 8時30分～18時30分

京都市交通局案内所

075-801-2561

市バスについて

- | | | |
|-------|-----------|--------------|
| ○ 運賃 | 企画総務部企画課 | 075-822-9104 |
| ○ 路線 | } 自動車部運輸課 | 075-822-9150 |
| ○ ダイヤ | | |
| ○ 運行 | | |
| ○ 車両 | | |
| ○ その他 | 自動車部技術課 | 075-822-9155 |
| | 自動車部営業課 | 075-822-9140 |

地下鉄について

- | | | |
|-------|----------|--------------|
| ○ 運賃 | 企画総務部企画課 | 075-822-9104 |
| ○ 運行 | 高速鉄道部運輸課 | 075-822-9168 |
| ○ 施設 | 高速鉄道部施設課 | 075-822-9185 |
| ○ 建設 | 建設室総括担当 | 075-822-9176 |
| ○ その他 | 高速鉄道部営業課 | 075-822-9164 |

市バス・地下鉄共通

- | | | |
|--------------------|----------|--------------|
| ○財政状況 | 企画総務部財務課 | 075-822-9127 |
| ○人件費等 | 企画総務部職員課 | 075-822-9117 |
| ○職員研修 | 企画総務部研修所 | 075-643-4601 |
| ○ホームページ、パートナーシップなど | 企画総務部総務課 | 075-822-9165 |
| ○イベント、オリジナルグッズなど | 企画総務部企画課 | 075-822-9108 |